

家庭ごみの減量にご協力を

ごみ処理に1人当たり年間約1万4000円

令和6年度のごみ排出量は、2万6743tで、そのうち家庭系ごみの排出量は1万8558t、1人1日当たり、約492gでした。

令和6年度のごみ処理費（収集、資源化、最終処分などの費用）は、約14億3743万円で、市民1人当たり約1万4000円を負担したことになります。ごみ処理費用には、ごみ袋や粗大ごみシールの売上金（約3億0319万円）と約11億3424万円の税金が使われています。

皆さんのごみ減量の努力により確実に処理費用を削減できます。ごみの減量の取り組みに協力をお願いします。



ごみの現状 生ごみと雑がみがキーポイント

もえるごみの中には、賞味・消費期限切れの食品や調理くずが多く混じっています。分別すればリサイクルできる「雑がみ」も多く出されています。これらを減らすことがごみ減量につながります。

ごみ減量のポイント

- ◆食品を買いすぎない。
- ◆賞味期限と消費期限の意味を知る。
 - ◇賞味期限 おいしく食べることができる期限。この期限を過ぎても、すぐに食べられないことはない。
 - ◇消費期限 期限を過ぎたら食べないほうがよい期限。
- ◆野菜などの傷みやすい食品は早めに使い切る。
- ◆食べることができる量に合わせて調理し、作りすぎない。
- ◆野菜の茎や皮を捨てずに使って調理する。
- ◆新聞紙・ダンボール・雑誌・「雑がみ」（包装紙・トイレットペーパーの芯・菓子箱など）・飲料用パック・古布は、古紙等回収倉庫や集団回収に出す。
- ◆資源ごみ（ビン・缶、ペットボトル・白色トレイ）はきれいに洗って出す。
 - ※汚れているものは、リサイクルできません。
- ◆リユースする。
 - リユースショップ、フリマアプリを上手に利用しましょう。

